

小学校

光村ポケット 英語

Here We Go!

実践紹介

自律的な学習者を育成するために

小学校外国語科での主体的な学び
Vol.2 学びを調整する

琉球大学附属小学校
奥平 明香先生



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



自律的な学習者を育成するために

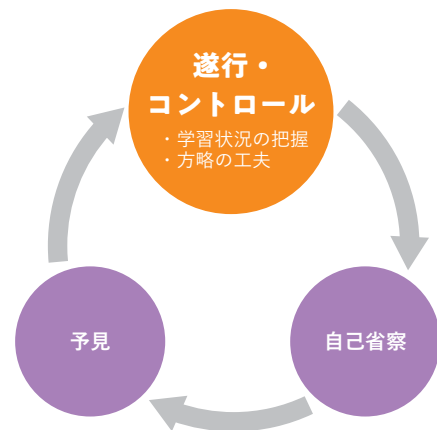
小学校外国語科での主体的な学び Vol.2 学びを調整する



琉球大学附属小学校
教諭

おくひら さやか
奥平 明香 先生

「自らの学びを舵取りできる、自律的な学習者の育成」をテーマにした連載の、第2回目です。前号では、「予見（見通し）」段階を取り上げました。今号では、「遂行・コントロール」段階について、私の普段の取り組みをご紹介します。



樺山敏郎（2022）『個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」』明治図書出版。
樺山敏郎（2024）『個別最適な学び・協働的な学びを実現する「学びの文脈」2』明治図書出版。
木村明憲（2024）『自己調整方略』明治図書出版。
白杉亮（2025）『自己調整につながる学習理論をビジュアルでまとめました』明治図書出版。
をもとに筆者作成

大切にしたいこと

「伝えたいこと」が芽生えるための種まきをする

「遂行・コントロール」では、「予見」で立てた目標に向かって、自らの学習状況を把握（メタ認知）しながら、学習者自身が試行錯誤を重ねます。外国語科の学習で言い換えれば、「子どもたち一人一人が、自分が伝えたいことを表現するために試行錯

誤を重ねる」段階と言えるでしょう。裏を返せば、「伝えたいことがないと、試行錯誤のしようがない」とも言えます。

私は、この「伝えたいこと」が芽生える種まきとして、他教科の時間を活用しています。例えば、今回ご紹介する「5年 Unit 5 My hero is my brother.」では、事前に総合の時間で「身近な尊敬する人（My Hero）と自分の共通点を探す」活動をし、自分自身と My Hero について考えを深めておくことで、外国語科の時間で取り組むときには、すでに「伝えたいこと」が子どもたちの中にある状態にしていました。

「何のためのインプットなのか」を意識する

英語でたくさんアウトプットするためには、質の高いインプットが欠かせません。インプットの質を高める方略はいくつかありますが、大切なのは、「聞くことの目的をもつ」ことです。大まかな内容を理解するため、発音を聞き取るため、自分が使いたい言葉を探すためなど、目的によって、聞くときに意識するポイントは異なるはずです。

教科書の「Let's listen.」一つとっても、上記の目的別に聞くだけで、合計4回も聞く機会が設けられるはずです。具体的な活動内容は、次の実践例をご紹介します。

5年 Unit 5 My hero is my brother. を例に

「遂行・コントロール」段階では、毎時間、次のことに取り組んでいます。

- 1 ゴール活動に基づいたやり取り（1 回目）
- 2 情報収集と整理・分析〔4 分間〕
- 3 ゴール活動に基づいたやり取り（2 回目）
- 4 情報収集と整理・分析〔7 分間〕
- 5 ゴール活動に基づいたやり取り（3 回目）

ここでは、ある一人の児童（児童 A）の様子に注目しながら、「遂行・コントロール」と関わりが強い、②と④について、第5時の実践を例にご説明します。

なお、児童 A は、単元の「マイ・ミッション」を「My Hero（母）への感謝の気持ちを持ちながら工夫して紹介できるように頑張る。」とし、常にこの目標に立ち返りながら学習を進めています。

② 情報収集と整理・分析〔4 分間〕

1 回目の「情報収集と整理・分析」は、前時で見つけた「言えると思っていたけど言えなかった言葉」を練習するための、浅い自己調整の時間としています。児童 A は、言い方と意味を確認することを目的にして、「学習者用デジタル教科書＋教材」のコンテンツである、絵辞典のカルタゲームやマッチングゲームに取り組んでいました。

④ 情報収集と整理・分析〔7 分間〕

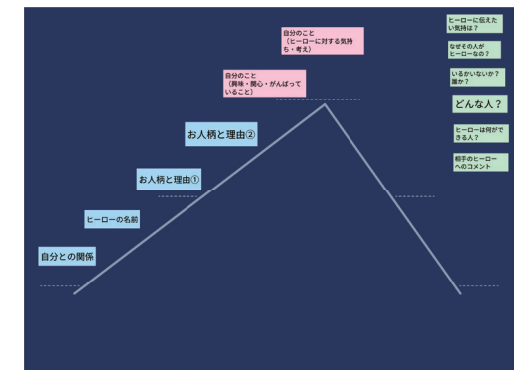
2 回目の「情報収集と整理・分析」では、表現をよりブラッシュアップしていくための、深い自己調整を行います。

ここで教師から、「登場人物のスピーチを参考に、ヒーロー紹介をしよう」という目的で、もう一度聞くことを提示しました。児童 A は、Nick が姉を紹介する発話に注目し、どんな内容をどんな順番で話しているかを分析していました（右上図）。



「学習者用デジタル教科書＋教材」を使って、5年 p.62 の Let's listen. に気づいたことを書き込んでいる画面。

この後児童 A は、思考ツールを使って自分の発表内容を整理していました（下図）。青いカードは、第4時までに書き込んだもので、ピンクのカードは、④の活動後に付け足されたものです。伝える内容がさらに広がっていることがわかります。



児童 A が思考ツールを使って、自分のスピーチ内容を検討している画面。

このような試行錯誤を経て、⑤でもう一度やり取りをすることで、「言いたいことが本当に言えるようになったのか」など、自らの学習状況をよりよく把握できます。

おわりに

今回は、私が外国語科の学習の中で、どのように自己調整能力を育む取り組みをしているのか、「遂行・コントロール」の段階を中心にお伝えしました。次号では、⑤の後に行われる「自己省察」についてご紹介する予定です。

学習支援ソフトで授業をアップデートしてみませんか？

第5回

ロイロノート・スクールで作った、ポートフォリオの活用

琉球大学附属小学校 教諭 おくひら さやか 奥平 明香 先生



右図は、第2回でご紹介した、単元全体を見渡すためのポートフォリオです。作成には、ロイロノート・スクール※を使用しています。このうち、「遂行・コントロール」段階で使うのは、主に枠のついた部分です。詳細を、以下にご紹介します。



5年 Unit 5 My Hero is my brother. (第5時) のポートフォリオ例

本時の目標。教師から提示しています。

5. 整理・分析【やりとり】

お互いのことを理解し合うために、「なぜその人が自分にとってのヒーローなのか」を伝え合うことができる。

目標設定

- 自分のヒーローについて説明し、相手に伝える。
- 相手のヒーローについて説明し、相手に伝える。
- 自分のヒーローについて説明し、相手に伝える。
- 相手のヒーローについて説明し、相手に伝える。
- 自分のヒーローについて説明し、相手に伝える。
- 相手のヒーローについて説明し、相手に伝える。

教師から提示した本時の Can-Do 尺度をもとに、どこまで到達したいか（青色）、どこまで到達できたか（赤色）を印します。

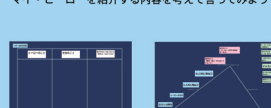
情報収集

登場人物のスピーチを参考に、ヒーロー紹介をしよう



整理・分析

マイ・ヒーローを紹介する内容を考えて書いてみよう



中面の④情報収集と整理・分析で使います。聞く目的や思考ツールは、教師から提示しています。

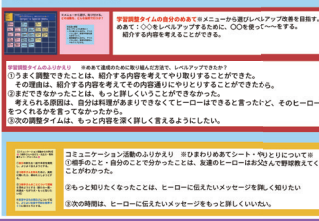
まとめ・表現

今日言えるようになった姿（録音・録画）



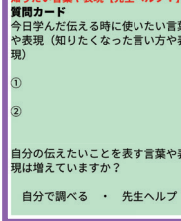
本時のまとめとして、発話を録音・録画して記録します。

学習調整・振り返り・改善



上段は、中面の②情報収集と整理・分析で使います。下段は、中面の①③⑤のやり取りをした際に、相手の発話を聞いてわかったことや、もっと知りたくなったことをメモする際に使います。

知りたい言葉や表現【先生ヘルプ！】



本時のまとめとあわせて、この後のゴール活動で使いたい言葉や表現を記録させています。

e ポートフォリオの準備は面倒かもしれませんが、まずはやってみることで、できることやできないことがわかってきます。手軽にできそうな要素から、少しずつ取り入れてみませんか。

※「ロイロノート」は、株式会社 LoiLo の登録商標です。



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行者 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)
デザイン なるせよぞら

光村図書ウェブサイト

光村図書 | Q

